

令和7年度 学校評価計画書（中間評価と改善策）

石川県立金沢伏見高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考	中間評価と改善策
1 生徒が自己実現に向け、失敗を恐れることなく、様々なことに取り組めるよう教職員は安心、安全な教育環境を整える。	① 基本的な生活習慣の確立を図るため、授業開始1分前の予鈴をなくし、定期的にノーチャイムデーを設け、自ら時間を意識した行動をとれるよう指導する。	生徒支援課 各学年	時間を守る意識の高い生徒が増えている一方、時間を守るにあたり、予鈴や教員の呼びかけを頼りにしている生徒もいる。	【成果指標】（生徒） 生徒が時間を意識した行動をとることができる。	（生徒）時間を意識した行動をとることができる生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：70%以上80%未満 D：70%以上	C、Dの場合、指導方法を再検討する。	7月と12月に学校評価（生徒）で調査する。	生徒アンケートの肯定的評価が94.8%でA評価であった。 ノーチャイムウィークを定着させ、生徒が主体的に時間を守ろうとする意欲をさらに高めていきたい。また、自ら時間を守れるようになることの意義を教職員、生徒とともに考える時間を設ける。
	② 昨年度実施した「おは活」（朝のあいさつ運動）に加え、生徒会や校風委員を中心とする啓発活動を行い、自発的に挨拶しようとする意識を高められるようにする。	生徒支援課 各学年 各部活動	多くの生徒が校内で挨拶を交わしている。しかし、自ら進んで挨拶することを意識している生徒の割合はまだ目標には届いていない。	【成果指標】（生徒） 生徒が自ら進んで挨拶ができる。	（生徒）自ら進んで挨拶できる生徒の割合が A：90%以上 B：85%以上90%未満 C：80%以上85%未満 D：80%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	7月と12月に学校評価（生徒）で調査する。	生徒アンケートの肯定的評価が80.3%でC評価であった。 挨拶を返すことはできても自分から挨拶できない生徒が一部いるようである。生徒が主体となって取り組む「おは活」を2学期以降取り入れ、進んで挨拶できる生徒を増やしたい。
	③ いじめ防止に関する講話や教員対象の研修会などにより、生徒・教員ともにいじめに関する意識を高め、いじめの起こらない雰囲気をつくる。	生徒支援課 保健相談課 各学年	「いじめはどこにでもある」という認識のもと、実態の把握に努め、個々の事案について、組織的かつ迅速に対応している。小さな変化を見逃さず情報共有を行う体制を維持する必要がある。	【努力指標】（教員） いじめを見逃さない学校づくりに組織的に取り組んでいる。	（教員）本校の「いじめ防止基本方針」に基づいて、いじめやネットトラブルの未然防止に学校全体で組織的に取り組んでいると回答する教職員の割合が A：100% B：90%以上100%未満 C：80%以上90%未満 D：80%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	7月と12月に学校評価（教員）で調査する。	教員アンケートの肯定的評価が97.9%でB評価であった。 学校で取り組んでいることを意識できていない教員がいたため、A評価とならなかった。本校の対応方針を全職員にあらためて周知徹底し、引き続きいじめにつながる行為や発言等を見逃さないよう、生徒の観察、情報共有を行っていきたい。
	④ 美化委員、保健委員を中心に学校生活の環境保全に関する啓発活動を自主的におこない、環境保全に対する生徒の意識を高められるようにする。	保健相談課 生徒課 各学年	ゴミの分別については改善傾向にあるが、引き続き掃除の時間に美化委員の生徒がゴミ分別チェックを行う。また、消灯に関しては、誰もいない教室の消灯がなされていないことがあった。	【成果指標】（生徒） ゴミの分別、教室やトイレの消灯が正しくなされている。	（生徒）ゴミの分別、教室やトイレの消灯、校内の環境保全活動に積極的に取り組んでいる生徒の割合が A：95%以上 B：90%以上95%未満 C：80%以上90%未満 D：80%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	7月と12月に学校評価（生徒）で調査する。	生徒アンケートの肯定的評価が89.0%でC評価であった。 昨年度の達成状況がよかったため判断基準を上げたが、まだ目標は達成できていない。現状をふまえ、保健委員と美化委員がトイレをきれいにしようという共通のテーマで動き始めており、9月以降に実行する。
2 生徒が学習意欲を高め主体的に学ぶ方法を見つめられるよう、教職員は様々なICT機器を活用した評価の研究をすることにより指導方法の改善を進める。	① 各授業において、ICT機器を効果的に活用した評価の研究を進めるとともに、評価方法の具体事例を教科間でも共有していく。	教務課 各学年 各教科	研修をとおしてICT活用力が上がり、ほとんどの教職員が授業で積極的に活用している。引き続きICT機器を活用した効果的な評価方法についての研究と情報の共有を進めていく必要がある。	【努力指標】（教員） 教員は生徒の思考が深まるよう、ICT機器を活用した評価の研究を進めている。	（教員）ICT機器を効果的に活用した評価の研究を進めることに努めたと回答している教員の割合が A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：70%以上80%未満 D：70%未満	C、Dの場合、ICT機器の活用方法に関する研修体制を再検討する。	7月と12月に授業評価（教員）で調査する。	教員アンケートの肯定的評価が82.9%でB評価であった。 授業において積極的にICT機器を活用した評価の研究が行われている。教科での会議や研修により、ICTの活用および評価のあり方の好事例を全職員に広めていきたい。
	② 学習時間調査や面談等を活かして、生徒が自分に必要な学習量や内容を理解した上で、見通しを持ち家庭学習に取り組む態度を育て、学習習慣の定着を図る。	教務課 各学年 各教科	家庭学習状況を担任が把握し、学習内容の偏りや時間不足の生徒に対し、速やかに面談を行い、助言や支援を行っている。生徒が家庭学習の必要性を実感できるような指導の工夫を進め、生徒の主体的な学習習慣の定着に向けた取組を継続する。	【成果指標】（生徒） 生徒が自分で学習目標を設定し、それに向けて学習に取り組むことができる。	（生徒）「自分で立てた学習目標に向けて学習に取り組むことができた」と回答した生徒の割合が A：70%以上 B：60%以上70%未満 C：50%以上60%未満 D：50%未満	学年別に評価し、C、Dの場合、学習指導のあり方を再検討する。	授業評価アンケートに合わせて生徒が回答（年2回）	生徒アンケートの肯定的評価が69.5%でB評価であった。 生徒は概ね自分で立てた学習目標に向けて学習に取り組んでいるようである。各定期考査ごとに実施している学習時間調査結果を、生徒との面談等で活用し、さらなる学習意欲向上につなげたい。
3 生徒が十分な情報の中から自分で考え選択し進路決定ができるよう、教職員はキャリア教育の充実にも努める。	① ホーム担任等は面談を丁寧に行い、生徒が将来を見据えて進路目標を設定できるようにする。	進路指導課 各学年	個別の面談を通して生徒との良好な関係を築いているが、生徒一人ひとりの適性や能力をふまえ、適切な目標設定と将来の進路についてより深く考えるための情報を提供する必要がある。	【成果指標】（生徒） 個人面談や進路ガイダンスにより、生徒が進路先を検討・比較する情報が提供できている。	（生徒）担任等との個人面談や進路ガイダンスにより、進路先について自分で比較し選択するための情報を得ることができた生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：70%以上80%未満 D：70%未満	C、Dの場合、面談内容や時期、および面談回数等、生徒への情報提供のあり方や意識づけ方法を再検討する。	7月と12月に学校評価（生徒）で調査する。	生徒アンケートの肯定的評価が81.0%でB評価であった。 教職員アンケートでは約98%の教員が「生徒は進路先を検討・比較する情報を得ることができている」と答えている。必要な情報を得る方法を生徒に考えさせることにより、より具体的な進路について考えるきっかけとしたい。
	② 生徒の進路志望決定に向けて、全教職員で取り組む体制を整える。	教務課 進路指導課 各学年	総合的な探究の時間や伏見プラス等、生徒の進路決定に向けた取り組みを行っている。	【成果指標】（生徒） 総合的な探究の時間や伏見プラスの取り組みが、自身の将来の生き方や進路について考えるきっかけになった。	（生徒） 総合的な探究の時間をはじめ、伏見プラス等学校の取り組みが、自分の進路について考えるきっかけとなった生徒の割合が A：80%以上 B：70%以上80%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	C、Dの場合、取組内容や生徒への情報提供のあり方、意識づけ方法を検討する。	7月と12月に学校評価（生徒）で調査する。	生徒アンケートの肯定的評価が75.1%でB評価であった。 各企画後の生徒の振り返りを見ると、伏見プラスは進路を考えるきっかけになっていると思われる。今後は探究型学習をすすめ、生徒が考える場面を増やしていきたい。
	③ 生徒と保護者に対し、進路選択に役立つ説明会を適時適切に実施する。また、進路志望実現のために必要な学習環境を提供する。	進路指導課 各学年	生徒の進路志望を実現させるために、具体的な目標を提示し、生徒が意欲的に努力し続けるサポートをしている。	【成果指標】（生徒3年生） 生徒が第1志望の進路先に合格することができる。	（生徒3年のみ）（年度末進路結果） 志望する上級学校に合格した生徒の割合が A：80%以上 B：70%以上80%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	C、Dの場合、面談内容や時期、および面談回数等、生徒への情報提供のあり方や意識づけ方法を検討する。	進路志望調査と年度末の進路結果で調査する。	9月の進路志望調査と年度末の進路結果で調査するため、現段階は評価未定。年度末に生徒の志望がかなうよう各方面と連携し、目標達成を目指す。

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考	中間評価と改善策	
4	教職員は生徒が生徒会活動・部活動・学校内外の行事・体験活動をおして自己肯定感を高めることができるよう支援する。	生徒支援課 各学年 各部活動	① 部活動は人間力の向上につながることをガイダンス等を通して生徒に考えさせるとともに、生徒が自ら部活動の魅力を理解できる機会を設けることにより、加入率を高める。	「部活動が学校生活を活力あるものになっている」と認識している生徒が多く、生徒は部活動を通して学校生活の充実を図っている。一方で、学年が進むに連れて加入率が下がる傾向があり、3年間継続して活動できるよう、活動内容の工夫や環境づくりに取り組む必要がある。また、短時間で効率的な活動による生徒の満足度の向上を目指している。	【成果指標】（生徒） 部活動に登録した生徒の割合が増加している。	（生徒）部活動に登録した生徒の延べ人数が全生徒の A：85%以上 B：80%以上85%未満 C：75%以上80%未満 D：75%未満	C、Dの場合、各部活動の活動内容・記録等を周知するとともに高校生活を通して部活動を続ける意義を実感させる取組を再検討する。	5月と10月に部加入率の調査を実施する（3年生は5月のみ）。	生徒の部加入率は年々減少する傾向にあり、今年度の5月調査では67.6%でD評価であった。部活動に熱心に取り組んでいる生徒のメッセージや、卒業生の部活動での貴重な思い出話を聞く機会を全生徒に提供し、部活動に興味関心が高まるような取り組みを図っていききたい。
			② ボランティア活動後の振り返りを充実させ、自己の成長を実感させることで、ボランティア活動に積極的に参加する意識を一層高める。	伏見川清掃や地元町会と雪かきボランティア協定を締結するなど、地域から信頼される学校づくりの一環としてボランティア活動への参加を促している。	【成果指標】（生徒） 生徒が、ボランティア活動は学校生活の充実や自己の成長につながると考えている。	（生徒）ボランティア活動が学校生活の充実や自己の成長につながると回答する生徒が参加生徒の A：80%以上 B：75%以上80%未満 C：70%以上75%未満 D：70%未満	C、Dの場合、活動計画の周知を徹底するとともに、活動の意義を実感させる取組を再検討する。	7月と12月に学校評価（生徒）で調査する。	生徒アンケートの肯定的評価が75.7%でB評価であった。ボランティア活動や生徒会活動などのあらゆる課外活動を充実させることにより、学校生活をより活力あるものにしていきたい。
5	教職員が組織的、協働的に業務に取り組むことにより、教育活動全般の効果、効率を高める。	副校長 各課・学年主任	多くの職員が依頼があれば協力しあえる職場環境となっている。情報共有を進め、教員一人ひとりが、全体像を把握しアイデアや力を出し合うことで、より効果的な業務改善と教育活動の充実に必要な取り組みがある。	【努力指標】（教員） 教員は効果的な業務遂行に向け、組織的、協働的に取り組むよう努めている。	（教員）組織的、協働的に取り組むよう努めている、概ね努めていると回答する教員の割合が A：80%以上 B：70%以上80%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	C、Dの場合、次年度の取組を再検討する。	7月と12月に学校評価（教員）で調査する。	教員アンケートの肯定的評価が76.6%でB評価であった。各課、学年内においては、風通しよく、良い雰囲気で行えている状況である。さらに今後は、各行事等に見通しを持って取り組み、職員同士がお互いの良さを認め合いながら、課、学年を超えて協力し合えるような職場環境づくりに努めていきたい。	
6	教職員は、担当する教育活動の成果等について、学校HPや印刷物等を活用して保護者や地域に対し迅速かつわかりやすく発信する。	副校長 各課・学年主任	日々の学校生活や行事、部活動などの様子が保護者に分かりやすいよう、学年通信の掲載内容を工夫した。さらに、配信メールで掲載を案内したことや、ホームページ上の写真の掲載方法を工夫したことでアクセス数が伸び、保護者からも高評価を得ている。	【満足度指標】（保護者） 保護者が本校の教育活動全般を理解し、満足している。	（保護者）本校の教育活動についてホームページや配信メール等で提供される情報に「大いに満足している」、「満足している」と回答する保護者の割合が A 90%以上 B 85%以上90%未満 C 80%以上85%未満 D 80%未満	C、Dの場合、提供情報の内容やタイミング等について再検討する。	4月から7月と、8月から12月の集計で評価する。	保護者アンケートの肯定的評価が72.2%でD評価であった。ホームページや配信メールに加え、今年度よりクラスターを導入し、情報をきめ細かく適時適切に提供している。保護者アンケートではD評価となったが、生徒、職員アンケートでは、肯定的評価がそれぞれ88.2%、100%と高評価であった。今後は、直接配布するお便り等を含め、適切な通信手段を用いて、必要な情報の提供を心がける。	